

令和6年度サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者指導者養成研修

PG α-01

研修ガイダンス

PG α-02

個別支援計画作成等の

プロセスを確認する

**社会福祉法人 蒼溪会
理事長 有野哲章**

基礎研修コース 目的

- 基礎研修実施のポイントをおさえながら、企画立案を考える
- 個別支援計画作成のプロセスを、各分野（意思決定・発達障害・就労・身体や精神障害の特性）から考え、課題を考える。

基礎研修・実践研修・更新研修のねらい

更新研修：自己検証

施策の最新の動向、自己検証、スーパーバイズ

5年毎

サービス（児童発達支援）管理責任者として継続

実践研修：質の向上

支援会議の運営、サービス（支援）提供職員への助言・指導、個別支援計画の質の向上

基礎研修 修了後2年

サービス（児童発達支援）管理責任者として配置

基礎研修：プロセス

アセスメント、個別支援計画の作成、相談支援専門員との連携、多職種連携

3年

原案作成が可能

チェックイン

基礎研修カリキュラム

科 目	内 容 ・ 目 的	時 間 数
Ⅰ、 サービス管理責任者・児童発達管理責任者の基本姿勢とサービス提供のプロセスに関する講義（７．５時間）		
サービス提供の基本的な考え方（講義）	サービス提供の基本的な考え方として、利用者主体の視点、自立支援の視点、エンパワメントの視点、ICFの視点、現実的な支援計画に基づくサービス提供、連携の必要性等について講義により理解する。	６０分
サービス提供のプロセス（講義）	サービス提供のプロセスに関する講義により、PDCAサイクルによるサービス内容を確認することの重要性とその方法、個別支援計画の意義を理解する。	９０分
サービス等利用計画等と個別支援計画の関係（講義）	サービス等利用計画等と個別支援計画の関係性について講義を行い、サービス等利用計画等における総合的な援助方針を導き出すプロセスを理解し、個別支援計画の出発点がサービス等利用計画等の総合的な援助方針であることを認識する。また、サービス等利用計画等が生活全体の範囲に及び、個別支援計画が生活全体をイメージしながらも事業所内サービスに重点を置いた計画であることを理解する。	９０分
サービス提供事業所の利用者主体のアセスメント（講義）	サービス提供における利用者を主体としたアセスメントの考え方やその手法について講義により理解する。また、障害種別や障害福祉サービスなど各分野における異なる視点について理解する。	１５０分
個別支援計画作成のポイントと作成手順（講義）	個別支援計画の作成におけるポイントと手順についての事例等を活用した講義を行い、作成の視点がリスクマネジメントのみに陥らないように、エンパワメントの視点やストレングスの活用について理解するとともに、作成の手順を習得する。	６０分
Ⅱ、 サービス提供プロセスの管理に関する演習（７．５時間）		
個別支援計画の作成（演習）	モデル事例を活用したグループワークにより、サービス等利用計画に示される総合的な援助方針、長期目標及び短期目標を踏まえて、個別支援計画の支援内容、担当者、連携の頻度等について検討する。それに基づき、支援目標、支援内容を設定し、個別支援計画を作成する。	２７０分
個別支援計画の実施状況の把握（モニタリング）および記録方法（演習）	モデル事例を活用したグループワークにより、事業所において提供している支援のモニタリングについて、サービス等利用計画等との連動性を念頭に入れながら、視点・目的・手法等を理解する。	１８０分
合計時間		１５時間

基礎研修の目的の キーワード

基本的な理念や倫理、利用者主体、エンパワメント、ＩＣＦ

支援のプロセス、ＰＤＣＡサイクル

相談支援専門員との連動、援助方針を導き出すプロセス、利用者の生活全体をイメージ

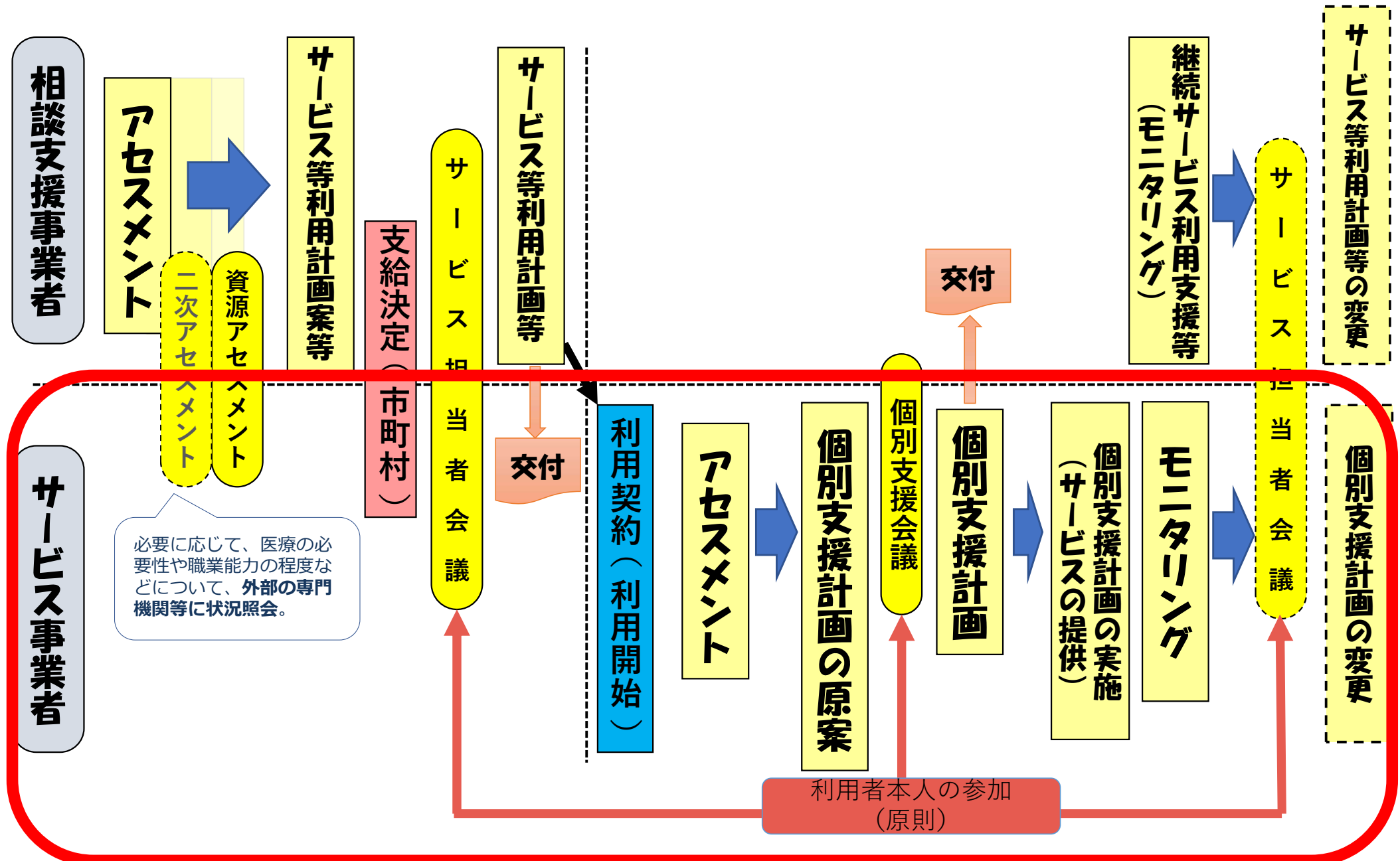
障害の理解、個別アセスメントに特化しないこと、地域の中での関係性

ストレングス、サービス等利用計画等と個別支援計画の連携、ニーズの把握、課題の整理

プロセスの理解、サービス（支援）担当者、（個別）支援会議、モニタリング、傾聴

モニタリング、サービス等利用計画等との連動、多職種連携、情報の整理

指定特定相談支援事業者（計画作成担当）及び障害児相談支援事業者と 障害福祉サービス事業者の関係



個別支援計画作成のプロセス

項 目	内 容
アセスメント（本人と会って）	実際は、見学等からアセスメントは始まっている。 利用するきっかけ・利用する希望 現在➡過去➡未来 ADLなど
原案作成	本人の希望を中心にすえて考えてみた時、自分の事業所でできるステップは何か？
個別支援会議（本人参加）	情報の共有 本人の理解 支援の足並みをととのえる。 本人が期待する支援・事業所ができる支援を確認
本計画作成	個別支援会議をふまえて、原案を修正し本計画を作成する
本人への説明・サインをもらう	本人の計画を説明。サインをもらうのは、この計画に同意してもらった確認。
モニタリング（終結の場合も）	これまでの生活や利用の様子を踏まえながら、プランに沿って状況を確認。

基礎研修コース 講義テーマ

項 目
ガイダンス/個別支援計画作成プロセスの確認
意思決定支援へのいざない～知的分野から考える～
令和6年度報酬改定のポイントを都道府県研修に取り入れるために
発達特性に応じた個別支援計画の作成プロセス
サビ管同士の連携 ～就労現場からサビ児管プロセスを考える
サビ児管プロセスにおける「自己理解」について ～身体や精神障害の特性からサビ児管プロセスを考える～

基礎研修コース 構成

1. 講義

講義のテーマに沿って、現場の状況や実践を踏まえてお話します。

2. クロストーク（講師＋ α ）

講義を聞いた感想、自分の経験や現場の状況などを踏まえ、研修に組み込むことを視野に自由に話します。

3. GW（グループシェア）

みなさんが、「気づいたこと」「もっとこうしたいな、こうなったら良いな」等感想をグループでシェアしてください。ファシリは交替で行ってください。